

十字架のメッセージ

「福音」という言葉は、ギリシャ語で「良い知らせ」を意味する言葉に由来します。イエスの生涯、死、そして復活の物語は、神が御子の犠牲を通して人類を贖うという計画を明らかにしているため、まさに良い知らせと言えるでしょう。この研究では、十字架が福音の中心である理由、それがどのように神の永遠の計画を成就するのか、そして十字架が私たちの人生にどのような変革をもたらすのかを探ります。

1. 福音：救いをもたらす神の力

福音は単なる物語ではなく、信じる者を救う神の力そのものである。A. 信仰のみによる救い

神の義は、人間の努力によってではなく、イエス・キリストへの信仰を通して明らかにされる。

- ローマ人への手紙 1:16-17：「わたしは福音を恥とは思いません。福音は、信じるすべての人に救いをもたらす神の力だからです。…福音の中には、神の義が啓示されています。それは、初めから終わりまで、信仰による義です。」
- 補足聖句：ローマ人への手紙 3 章 22-24 節-「この義は、イエス・キリストを信じる信仰によって、信じるすべての人に与えられます。…そして、すべての人は、キリスト・イエスによる贖いを通して、神の恵みによって無償で義と認められるのです。」これは、救いは行いによって得られるものではなく、信仰によって受け取る賜物であることを強調しています。

B. 福音の核心的事実

福音書は、イエスの死、埋葬、そして復活という三つの歴史的出来事を中心に構成されている。

- コリント人への手紙第一 15:1-5：「兄弟姉妹よ、私があなたがたに宣べ伝えた福音をもう一度思い出していただきたい。すなわち、キリストは聖書に書いてあるとおり、私たちの罪のために死なれ、葬られ、聖書に書いてあるとおり、三日目に復活され、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたということです。」これらの出来事は私たちの希望の土台となり、イエスが罪と死

に勝利したことを証明しています。

2. 神の永遠の計画

十字架は人間の罪に対する反応ではなく、最初から神の救済計画の一部であった。A. 選ばれた小羊イエス

イエスは人類を救済するための犠牲の子羊として、あらかじめ定められていた。

- ペテロの手紙第一 1:18-21：「あなたがたは、朽ちるものによってではなく、傷も汚れもない小羊であるキリストの尊い血によって贖われたことを知っているからです。キリストは天地創造の前に選ばれていましたが、あなたがたのためにこの終わりの時に現れたのです。」
- 補足聖句：ヨハネの黙示録 13 章 8 節-「世の創造の時から屠られた小羊」。これは、神の救済計画が時が始まる前から定められていたことを裏付けています。

B. 復活による希望

イエスの復活は私たちの信仰を確証し、永遠の命への希望を与えてくれる。

- ペテロの手紙一 1 章 3 節 — 「神は、その大きな憐れみによって、イエス・キリストの死者からの復活を通して、私たちを生き生きとした希望へと新しく生まれさせてくださいました。」復活は、イエスの犠牲が神に受け入れられ、私たちの未来が確かなものとなったことを保証しています。

3. イエスの犠牲：謙遜な人生

イエスの犠牲は十字架刑よりもずっと前から始まっており、私たちのために神の特権を放棄する意思を示していた。

- フィリピの信徒への手紙 2:5-8：「キリスト・イエスは、神の御姿であられたにもかかわらず、神と等しいことを自分の利益のために用いるべきものとは考えず、むしろご自身を無にして、しもべの姿をとり、人間と同じ姿になりました。そして、人としての姿で現れ、死にまで従順であられ、それも十字架の死にまで従順であられたのです。」
- 補足聖句：ヘブライ人への手紙 2 章 17 節-「それゆえ、イエスはあらゆる点で彼らと同じように、完全に人間とならなければならなかった。それは、神に仕える憐れみ深く忠実な大祭司と

なり、民の罪を贖うためであった。」イエスの受肉と謙遜は、十字架への従順において頂点に達する、イエスの愛の深さを際立たせています。

4. 旧約聖書の預言の成就

旧約聖書はイエスの苦しみ、死、そして復活の具体的な詳細を予言しており、十字架が神の意図的な計画であったことを裏付けている。

A. 詩篇 22 篇：ダビデの預言（紀元前 1000 年頃）

ダビデの言葉は、十字架刑という慣習が存在する何世紀も前に、メシアの磔刑を鮮やかに描写している。

- 詩篇 22 篇 1 節-「わが神よ、わが神よ、なぜあなたはわたしを見捨てられたのですか。」
- 詩篇 22 篇 6 節-「わたしは虫けらであって人間ではない。すべての人に嘲られ、民衆に蔑まれている。」
- 詩篇 22 篇 7-8 節-「わたしを見る者は皆、わたしをあざけり、頭を振りながら侮辱の言葉を投げかける。『彼は主に信頼している。主が彼を救い出してくださいますように』と彼らは言う。」
- 詩篇 22 篇 16 節-「彼らは私の手と足を突き刺す。」
- 詩篇 22 篇 18 節-「彼らは私の衣服を分け合い、私の着物のためにくじを引く。」
- 補足聖句：詩篇 34 篇 20 節-「主は彼の骨をすべて守り、その一本も折られることはない。」（ヨハネによる福音書 19 章 36 節で成就）。これらの詳細はイエスの経験と完全に一致しており、神の靈感によるものであることを証明している。

B. イザヤ書 53 章：苦難の僕（紀元前 750 年頃）

イザヤはメシアの犠牲的な役割と勝利を預言した。

- イザヤ書 52 章 14 節-「彼の姿は、どんな人間よりもひどく醜く変形していた。」
- イザヤ書 53 章 3 節-「彼は人々に蔑まれ、拒絶された。苦しみの人であり、痛みをよく知っていた。」
- イザヤ書 53 章 4-5 節-「まことに彼は私たちの苦しみを負い、私たちの痛みを担った。彼の傷によって私たちは癒された。」

- イザヤ書 53 章 7 節-「彼は虐げられ、苦しめられたが、口を開かなかった。」
- イザヤ書 53 章 9 節-「彼は悪人たちと共に墓に葬られ、死に際しては富める者たちと共に葬られた。彼は暴力を振るわず、その口には偽りもなかったのに。」
- イザヤ書 53 章 10 節-「主は彼を打ち砕き、苦しめることを望まれた。そして、主は彼の命を罪のためのいけにえとされた。」
- イザヤ書 53 章 11 節-「彼は苦しみを受けた後、命の光を見て満足する。」
- イザヤ書 53 章 12 節-「彼は自らの命を死にまで注ぎ出し、罪人たちと共に数えられた。彼は多くの人の罪を負い、罪人たちのために執り成しをしたからである。」
- 追加の聖句：イザヤ書 50 章 6 節-「わたしはわたしを打つ者に背中を、わたしのひげをむしる者に頬を差し出した。あざけりと唾をかけられることから顔を隠さなかった。」これらの預言はイエスの受難に直接結びついており、十字架が聖書の成就であることを確証している。

5. マタイの福音書を振り返る

マタイによる福音書 26 章 31 節から 28 章 10 節を読み、イエスの苦難を受け入れる意志、イエスの周りの人々との私たちの類似性、そして預言の成就という 3 つのテーマについて考えてみましょう。

A. マタイによる福音書 26:31-35、36-46、47-56 –弟子たちの裏切りと見捨てにもかかわらず、十字架に立ち向かうイエスの決意。

- 追加の聖句：ヨハネによる福音書 10 章 18 節-「だれもわたしの命を奪うことはできない。わたしは自ら命を捨てるのだ。」考察：弟子たちのように、私たちは時としてイエスと共に立つことができないのはなぜでしょうか？

B. マタイによる福音書 26:57-68 –イエスは虚偽の告発と身体的虐待に直面する。

- イザヤ書 52 章 14 節-彼の姿は損なわれた。考察：不正義の下でのイエスの沈黙は、試練の中で神を信頼するよう、私たちにどのような問いを投げかけるだろうか？

C. マタイによる福音書 26:69-75、27:1-10 –ペテロの否認とユダの裏切りは、人間の弱さを浮き彫りにしている。

- 追加聖句：ルカによる福音書 22 章 31-32 節-イエスはペテロの信仰が揺るがないように祈る。考察：私たちは自分の行いにおいて、どのようにイエスを否定したり裏切ったりしてきたら

うか？

D. マタイによる福音書 27:11-26 –イエスは群衆に拒絶され、死刑を宣告される。

- イザヤ書 53 章 3 節、7 節–告発者たちの前で軽蔑され、拒絶され、沈黙を強いられた。考えてみよう。私たちは時として、キリストのために立ち上がるよりも、世俗的な承認を選ぶことがあるだろうか？

E. マタイによる福音書 27:27-31 –イエスは嘲笑され、殴打される。

- 詩篇 22 篇 6 節–蔑まれ、軽蔑される。考察：イエスの忍耐は、私たちに迫害に立ち向かう勇気をどのように与えてくれるだろうか？

F. マタイによる福音書 27:32-44 –イエスは十字架につけられ、正確な預言が成就する。

- 詩篇 22 篇 7-8 節、16 節、18 節–あざけられ、刺し貫かれ、衣を裂かれた。考察：これらの成就した預言は、どのように私たちの信仰を強めるのでしょうか？

G. マタイによる福音書 27:45-56 –イエスは見捨てられたと叫び、息を引き取る。

- 詩篇 22 篇 1 節–「わが神よ、なぜあなたは私を見捨てられたのですか？」
- 追加の聖句：コリント人への第二の手紙 5 章 21 節–「神は罪を知らない方を、私たちのために罪とされました。」考察：イエスが私たちの罪を負われたことは、神の愛に対する私たちの見方にどのような影響を与えますか？

H. マタイによる福音書 27:57-61 –イエスは金持ちの墓に葬られる。

- イザヤ書 53 章 9 節–富める者たちと共に墓に葬られる。考察：この記述は、どのように神の主権を裏付けているだろうか？

I. マタイによる福音書 27:62-66 –墓は守られているが、神の計画は成就する。

- 追加の聖句：詩篇 16 篇 10 節–「あなたは私を死の国に捨て置かないでしょう。」考察：死に対する神の力は、私たちにどのような励ましを与えてくれるのでしょうか？

J. マタイによる福音書 28:1-10 –イエスは復活し、預言を成就し、私たちの希望を確かなものにした。

- イザヤ書 53 章 11 節–彼は苦しみ後に命の光を見る。
- 追加の聖句：コリント人への手紙第一 15 章 20 節–「キリストは確かに死者の中からよみがえられました。眠りについた者たちの初穂として。」考察：復活は私たちの日常生活をどのように

変えるでしょうか？

6. キリストの苦しみ：私たちの模範と救い

イエスが十字架上で受けた苦しみは、模範を示すとともに、私たちの罪の贖いとなる。A. 従うべき模範

- ペテロの手紙第一 2 章 21-24 節-「キリストはあなたがたのために苦しみを受け、あなたがたに模範を残されました。…キリストの傷によって、あなたがたは癒されたのです。」
- イザヤ書 53 章 4-5 節、9 節、12 節-彼は偽りも暴力も用いずに、私たちの罪を負った。
- 補足聖句：ヘブライ人への手紙 12 章 2 節-「イエスに目を向け、…イエスは、ご自身の前に置かれた喜びのために、十字架を耐え忍ばれたのです。」苦しみを通して神を信頼されたイエスの姿は、私たちに信仰を貫くよう促します。

B. 正義への呼びかけ

イエスの犠牲は、私たちが罪に対して死に、義のために生きる力を与えてくれる。

- ローマ人への手紙 6 章 11-13 節-「罪に対しては死んだ者、キリスト・イエスにあっては神に対して生きている者とみなしなさい。」考察：私たちはどのようにこの変革を日々実践できるでしょうか？

C. 個人的な考察

イエスを十字架に釘付けにした罪について考えてみてください。イエスの赦しはあなたの心にどのような影響を与えますか？具体的な例や感じたことを共有してください。

7. 十字架：断罪と救済

十字架は、イエスの犠牲を通して救いをもたらす一方で、私たちの罪深さを直視させる。

A. 罪に対する断罪

イエスの罪のない生涯は、誘惑に直面しながらも清らかさを保ち続けたことから、私たちの罪深さを浮き彫りにする。

- ローマ人への手紙 8:1-4 -「キリスト・イエスにある者には、もはや罪の定めはありません。彼らは肉に従って生きるのではなく、御霊に従って生きるからです。」
- イザヤ書 53 章 10 節-イエスが罪の贖いの供え物として苦しむことは、神の御心であった。
- 追加の聖句：ヘブライ人への手紙 4:15 -「わたしたちには、わたしたちと同じようにあらゆる点で誘惑を受けた方がおられますが、その方は罪を犯されませんでした。」

B. 犠牲による救済

イエスの死は私たちの罪を贖い、彼を神の前での私たちの仲介者とした。

- イザヤ書 53 章 12 節-彼は多くの人の罪を負い、私たちのために執り成してください。
- 追加の聖句：テモテへの手紙第一 2 章 5-6 節-「神と人との間には、ただ一人の仲介者、人であるキリスト・イエスがおられます。この方は、すべての人々のための贖いとして、ご自身をさげられました。」

C. 良い知らせを受け入れる

福音を受け入れるためには、私たちは自らの罪を認め、イエスの犠牲を受け入れなければならない。

- ヨハネによる福音書 3 章 16 節-「神は、実に、世を深く愛されたので、ひとり子をお与えになった。それは、御子を信じる者が一人も滅びず、永遠の命を得るためである。」考えてみましょう。イエスがあなたのために捧げられた犠牲に、あなたはどのように応えますか？

宿題

- この研究を、成就した預言と個人的な応用例に焦点を当てて検討してください。
- ヨハネによる福音書を読み進めるか、使徒言行録を読み始めて、初期教会がどのように十字架と復活を宣べ伝えたかを見てください。

追加資料：キリストの血の力

A. 犠牲による浄化

イエスの血は私たちを罪悪感と罪から清め、神によって完全な贖罪として受け入れられる。

- ヘブライ人への手紙 9:11-15、22-28 -「キリストはご自身の血によって、一度限り聖所に入り、永遠の贖いを得られました。」

- 補足聖句：ヨハネの手紙一 1 章 7 節-「御子イエスの血は、私たちをすべての罪から清めます。」

B. 新しい契約

イエスの犠牲は新たな契約を確立し、赦しを保証する。

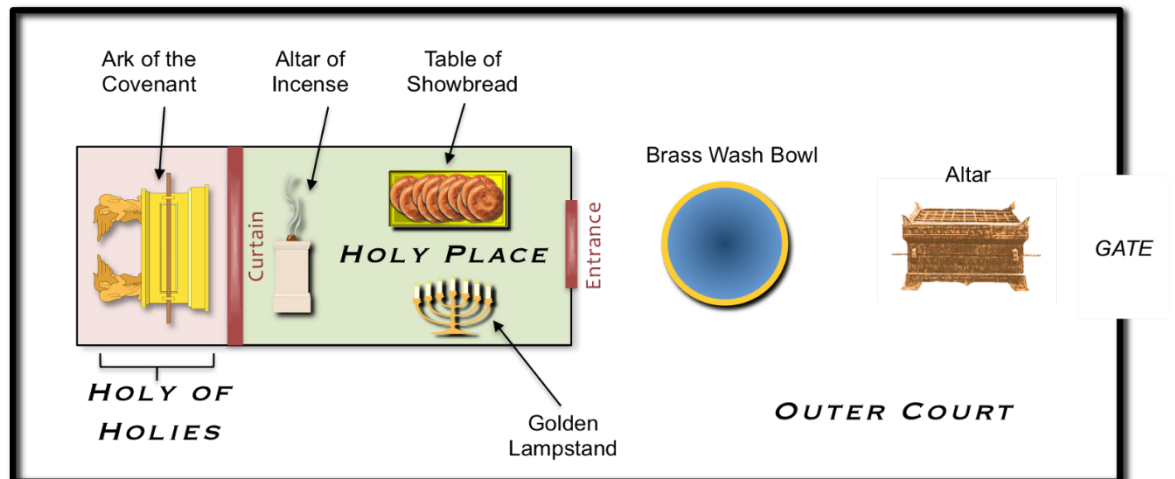
- ヘブライ人への手紙 8 章 12 節-「わたしは彼らの悪行を赦し、彼らの罪を二度と思い出さない。」

C. 幕屋の象徴性

旧約聖書の幕屋はイエスの犠牲を予示しており、神に近づくためには贖罪が必要であることを強調していた。

- ヘブライ人への手紙 10 章 19-22 節-「私たちはイエスの血によって、至聖所に入る確信を持っています。」

The Plan of the Tabernacle Revealed to Moses on Mount Sinai



キリストの十字架

十字架は福音の中心であり、すべての人をイエスのもとへと引き寄せます（ヨハネ 12:32）。その力は、神の救いに対する確信と感謝を生み出すことで、人々の人生を変革します。人間の知恵や二次的な問題でメッセージを薄めてはいけません（第一コリント 1:17-18）。確信をもってこの学びを分かち合い、キリストの犠牲の重みを心に刻みましょう。

重要な箇所と考察

- マタイによる福音書 26 章 39 節-イエスは苦しみの杯を飲むことを選び、私たちへの愛を示されました。
- マタイによる福音書 27 章 46 節-イエスはバラバのように、私たちの身代わりとなって、私たちの罪を負ってくださいました。考えてみましょう。私たちはバラバであり、イエスの犠牲によって解放されたのです。
- ペテロの手紙第一 2 章 24 節-「キリストは、わたしたちの罪をその身に負って十字架にかかられました。それは、わたしたちが罪に対して死に、義のために生きるためです。」考えてみましょう。これは私たちにどのような変化を促しているのでしょうか？
- 使徒行伝 2:36-37 -十字架は人の心を貫き、悔い改めと従順へと導く。
- 追加の聖句：ガラテヤ人への手紙 2 章 20 節-「私はキリストと共に十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。」

十字架を説明するための類推

- 兵士：兵士が仲間を救うために手榴弾の上に飛び込み、彼らのために命を犠牲にする。
- 列車：父親が列車の衝突を回避するために息子を犠牲にし、多くの命を救った。神は愛ゆえに、私たちを罪の結果から救うために御子を犠牲にされた。

マタイによる福音書（要約版、マルコによる福音書 15 章 16-39 節参照）

- 26:36-46: イエスは苦悩の中で祈り、神の意志を選んだ。
- 26:57-68: 殴られ、嘲笑され、イザヤ書 52:14 が成就する。
- 26:69-75: ペテロの否認は、私たちの失敗を映し出している（ルカ 9:23）。
- 27:11-26: 鞭打ち刑に処され、イザヤ書 53:7 にあるように沈黙させられる。
- 27:27-31: いばらで嘲られ、詩篇 22:6 が成就する。
- 27:32-44: 十字架につけられ、両手は刺し貫かれ、衣服は裂かれた（詩篇 22:16、18）。
- 27:46: 見捨てられ、私たちの罪を負わされた（イザヤ書 59:2、コリント人への第二の手紙 5:21）。

磔刑に関する医学的記述

注：医学的な記述は変更されていませんが、文脈を説明するためにここに引用されています。これは

十字架刑の肉体的な恐ろしさを伝えるために共有できますが、初期のキリスト教徒は復活の勝利を強調していました（使徒行伝 2:24、3:15）。

磔刑に関する医学的記述

簡略化および修正版 1

絞首刑、電気椅子、膝蓋骨銃弾、ガス室 —— これらの刑罰は恐ろしい。これらは今日でも行われており、その恐怖と苦痛を思うと身震いする。しかし、これから見ていくように、これらの試練はイエス・キリストの悲惨な運命、すなわち磔刑に比べれば取るに足らないものとなる。

今日、十字架刑に処される人はほとんどいない（ISIS やその他のテロリストによる処刑は除く）。私たちにとって十字架は、装飾品や宝石、ステンドグラス、ロマンチックな絵画、そして穏やかな死を描いた彫像といったものに限られている。十字架刑は、ローマ人によって精緻な芸術へと昇華された処刑方法だった。それは、最大限の苦痛を伴う緩慢な死をもたらすよう綿密に考案されたものだった。それは、他の犯罪者を抑止するための公開処刑であり、恐れられるべき死刑だった。

血のような汗

ルカによる福音書 22 章 24 節には、イエスについて「苦しみもだえながら、ますます熱心に祈られた。その汗は血の滴のように地面に落ちた」と記されている。3 イエスの汗が異常に多かったのは、感情の状態が異常に激しかったからである。脱水症状と疲労が重なり、イエスはさらに衰弱した。

殴る

イエスはこのような状態で、最初の肉体的虐待に直面した。目隠しをされた状態で、顔や頭を殴られたり平手打ちされたりしたのだ。攻撃を予期できなかったイエスは、ひどく打撲傷を負い、口や目も傷ついた可能性がある。偽りの裁判がもたらす心理的影響を過小評価してはならない。イエスは、打撲傷を負い、脱水症状を起こし、疲労困憊し、おそらくショック状態にあったことを考えてみよう。

鞭打ち

イエスは過去 12 時間で、精神的苦痛、最も親しい友人からの拒絶、残酷な殴打、そして不当な裁判の間を何マイルも歩かなければならなかった眠れない夜を経験した。パレスチナでの旅で確かに体力はついに違いないが、鞭打ちの刑罰には全く備えていなかった。その結果、影響はさらに悪化するだろう。鞭打ちを受ける男は服を剥ぎ取られ、両手を頭上の柱に縛り付けられた。そして、兵士が犠牲者の後ろと片側に立って、肩、背中、臀部、太もも、脚を鞭打たれた。使用された鞭、フラジェラムは、犠牲者を死に近づけるほどの破壊的な刑罰となるように設計されていた。それは、短い重い革紐

が数本あり、それぞれの端近くに鉛または鉄の小さな球が2つ付いていた。羊の骨片が加えられることもあった。

鞭打ちが進むにつれ、重い革紐はまず表面的な切り傷を作り、次に深部の組織に損傷を与える。毛細血管や静脈だけでなく、深部の筋肉の動脈まで切断されると、出血は激しくなる。小さな金属球はまず大きく深いあざを作り、さらに鞭を振るとそれが破れる。羊の骨の破片は、鞭を振り下ろすたびに肉を引き裂く。鞭打ちが終わる頃には、背中の皮膚は裂け、一面が裂けて出血している。

福音書記者たちが選んだ言葉は、イエスへの鞭打ちが特に過酷だったことを示唆している。彼は鞭打ち台から降ろされた時、確かに倒れそうになっていた。

嘲笑

イエスは回復する間もなく、次の試練に直面した。立たされたイエスは、嘲笑する兵士たちによってローブを着せられ、棘のある小枝をねじった冠をかぶせられ、さらに茶番劇を極めるかのように、王の笏として木の杖を与えられた。「次に、彼らはイエスにつばを吐きかけ、木の杖で頭を殴った。」長い棘が敏感な頭皮に突き刺さり、大量の出血を引き起こしたが、さらに恐ろしいのは、ローブが再び引き裂かれた際にイエスの背中の傷が再び開いたことだった。

肉体的にも精神的にもさらに衰弱したイエスは、処刑のために連行された。

十字架刑

ローマ人が用いた木製の十字架は、一人で運ぶには重すぎた。そのため、磔刑に処される者は、十字架から切り離された横木を肩に担ぎ、城壁の外にある処刑場まで運ばなければならなかった。（十字架の重い垂直部分は、処刑場に固定されていた。）イエスは、重さ約35～55キログラム（75～125ポンド）の横木を担ぐことができなかった。彼はその重荷に耐えきれず倒れ、見物人の一人が代わりに担ぐよう命じられた。

イエスは釘が打ち込まれる前に差し出されたぶどう酒と没薬を飲むことを拒否した。（それらは痛みを和らげるはずだった。）両腕を横木に沿って伸ばしたまま仰向けに倒されたイエスの手首から釘が木に打ち込まれた。長さ約6インチ、太さ3/8インチのこれらの鉄の釘は、感覚運動神経である正中神経を切断し、両腕に激しい痛みを引き起こした。骨と靭帯の間に慎重に配置されたこれらの釘は、磔刑に処された人の体重全体を支えることができた。

足に釘を打つ準備として、イエスは持ち上げられ、横木が垂直の柱に固定された。そして、膝を曲げた状態で、2本の釘が足首を貫き、イエスの両足が十字架の垂直部分の土台にまたがるようにされた。ここでも神経がひどく損傷し、激しい痛みが生じた。しかし、手首や足の傷は、主要な動脈が破裂し

なかったため、大量出血には至らなかったことに留意する必要がある。処刑人は、死がよりゆっくりと、より長く続くように、この点に細心の注意を払った。

十字架に釘付けにされた今、磔刑の真の恐怖が始まった。手首を横木に釘付けにすると、肘は意図的に曲げられたままにされ、磔刑に処された男は両腕を頭上に吊り下げ、体重は手首の釘にかかるようにした。当然ながら、これは耐え難い苦痛であったが、別の影響もあった。この姿勢では息を吐くのが困難だったのだ。息を吐き出し、新鮮な空気を吸い込むためには、釘付けにされた足で体を押し上げる必要があった。足の痛みが耐え難くなると、犠牲者は再び腕でぶら下がるように倒れ込んだ。腕でぶら下がり、息ができず、足を上げて息を吸い込み、また倒れ込む、という恐ろしい苦痛のサイクルが延々と続いた。

イエスの背中が垂直の柱に擦りつけられ、呼吸が不十分なために筋肉の痙攣が起こり、疲労がひどくなるにつれて、この苦痛に満ちた行為はますます困難になっていった。イエスはこのように数時間苦しみ、最後に叫び声をあげて息を引き取った。

死因

イエスの死には多くの要因が関わっていた。十字架刑の犠牲者のほとんどはショックと窒息の複合的な影響で死亡したが、イエスの場合は急性心不全が最終的な外傷だった可能性がある。これは、イエスが数時間後に大きな叫び声をあげて突然亡くなったことから示唆される。つまり、死はあっという間だったようだ（ピラトはイエスがすでに亡くなっているのを見て驚いた）。致命的な不整脈、あるいは心臓破裂が有力な原因として考えられる。

槍傷

イエスは、処刑人が隣に磔にされた犯罪者たちの足を折った時（彼らの死を早めるため）、すでに息絶えていた。しかし、聖書には兵士が槍でイエスの脇腹を突き刺したと記されている。脇腹のどこを刺したのだろうか？ヨハネが選んだ言葉は肋骨を示唆しており、もし兵士がイエスの死を確実にしようとしたのなら、心臓を刺すのが当然の選択だったはずだ。

傷口からは「血と水」が流れ出た。これは、槍で心臓を突かれたこと（特に、傷口の伝統的な位置である右側から）と一致する。心膜（心臓を包む膜）が破裂すると、水っぽい血清が流れ出し、続いて心臓が貫かれると血が流れ出た。

結論

福音書に記された詳細な記述と、十字架刑に関する歴史的証拠を総合すると、確固たる結論に至る。すなわち、現代の医学的知識は、イエスが十字架上で亡くなったという聖書の記述を裏付けている。

注記

1 これは、イエスの磔刑に関する簡略化された医学的記述です（有名なトルーマン・デイビス版を改変したものです）。他にも医学的報告はありますが、いずれも有益ではあるものの、概して専門的です。本書は、一般の読者にも読みやすいように作成しました。この改変版は、アレックス・ムナツァガニアンとの協力を得て、1989年12月に作成しました。

2 強くお勧めする：マルティン・ヘンゲル著『神の子の十字架』（ロンドン：SCM Press, Ltd: 1981）。

3 私たちのバージョンの十字架刑の医学的記述の原文には、次の文章が含まれていました。「血汗症、つまり血の汗はまれですが、よく記録されています。強い精神的ストレス下では、汗腺の毛細血管が破裂し、汗に血液が混じることがあります。ルカの記述は現代の医学的知識と一致しています。イエスは、体が耐えられないほどの激しい精神的苦痛に苛まれていたのです。」しかし、ルカは、イエスの汗が地面に落ちたとき血のようだったと述べているだけで、血が混じっていたとは述べていません。弟子として、私たちはこの件を誇張しないように注意しなければなりません。初期のキリスト教徒が、改宗させようとしていた人々を病気にさせたり恥じ入らせたりするために、十字架の惨状を説教したという証拠はありません。

4 場所によっては木が豊富に生えているところがあれば、地面に柱を立てる必要があったところもあった。イエスが磔刑に処された場所には木が豊富に生えていた可能性が高く、その場合、イエスとキレネのシモンが持っていたパティブルムは単に木に取り付けられただけだったと考えられる。もちろん、イエスが文字通り木で殺されたのか、それとも比喩的に（木の幹の上で）木で殺されたのかは、磔刑の本質とは直接関係ない。

個人的な感想

- ペテロの手紙第一 2:21-25、ガラテヤ人への手紙 2:20、コリント人への手紙第二 5:14-15 — キリストの愛は、私たちをキリストのために生きよう促します。十字架があなたの人生にどのような影響を与えたかを分かち合いましょう。
- 使徒行伝 2 章 22-38 節、ローマ人への手紙 5 章 6 節 — 十字架は私たちの罪深さを明らかにしますが、同時に救いをもたらします。あなたはこの犠牲にどのように応えますか？

結論

十字架は、私たちの罪と神の愛を私たちに突きつけます。そして、悔い改め、信仰、そして義に身を捧げる生き方という応答を求めます。ローマ人への手紙 5 章 8 節をじっくり考えてみましょう。「神は、

私たちがまだ罪人であった時に、キリストが私たちのために死んでくださったことによって、私たちに対するご自身の愛を示されました。」あなたは十字架の光の中で、どのように生きていきますか？